

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年五月度 入賞句一覧 投句数 六百二句

特選



大堀 武直 選

燕飛ぶ燕色なる蔵の町

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

燕は四月から五月にかけて南方から飛来する。人家や建物の軒下に巢を作る。背面は光沢のある黒、腹面は白である。蔵の色も屋根は黒、壁は白だ。燕が蔵の並ぶ街を、滑るが如く飛び交っている。モノクロの絵がくつきりと描かれている。

おもてなし先ずは新茶と近況と

大垣市 佐竹 余史美

「おもてなし」は東京オリピックで流行語になった。歓待の心を表す。五月は新茶のシーズン。来客に用意した新茶を淹れ、お互いに自分のことや家族のことを話す。「先ずは」に万感が集約されている。これから長い会話が始まる。

おいそれと馴染んで呉れぬ祭下駄

安八郡輪之内町 野村 照子

夏祭には浴衣を着て、新しい下駄をはいて、見物に出かけたり踊りに参加したりすることがある。新品の下駄は鼻緒がきつめになっており、馴染むのに時間がかかる。擦れて傷やまめができることもある。擬人化して「くすつ」と笑わさせてくれた。

秀逸

撫で牛の眼掠むる花吹雪

福井県敦賀市 山田 美千代

堂塔も墨絵と化して春霞

不破郡垂井町 川瀬 慶泉

新茶汲む雫の香まで絞りきり

海津市 横井 美圭

ペン置けば雨の音あり春の宵

不破郡垂井町 竹嶋 富美子

老もゐて子供食堂つばめ来る

埼玉県川口市 吉永 寿美子

ふらここに座るふたりの影法師

栃木県那須塩原市 垣内 孝雄

卒業や校歌の峰に陽の射して

愛知県豊田市 城山 悠水

夏語るごと源流の響きをり

長野県下伊那郡 長沼 まさし

ステップを踏む子走る子淡竹の子

大阪府堺市 椋本 望生

梅雨晴に十八番ハミング踏むペダル

大垣市 早筈 千恵子

入選

一般の部

新茶淹れて夫と四方山話の夜

大垣市

三輪 千芽

待ち人は来たたらぬままに春夕焼

揖斐郡大野町

豊田 美見

入社式訓示の語尾は国訛

本巢市

小泉 裕子

グランドの球児の声や夏近し

不破郡垂井町

富田 実郎

かごの底幾度ものぞく茶摘みの子

大垣市

三輪 葉加

春暁や大漁旗の戻り船

養老郡養老町

田中 紫香

春暁の鴉は空に向いて鳴く

大垣市

和田 勝子

春の雪籽の音精を出してをり

揖斐郡大野町

藤田 涼子

外灯のはやばや灯る五月闇

安八郡神戸町

早津 郁男

のどけしや微睡む鹿の長まつげ

岐阜市

田中 淳子

太陽と桜の影の水面かな

大垣市

樋口 絹子

直角に折れる水路や夏近し

愛知県犬山市

有本 仁政

名画座にビロードの椅子朧の夜

東京都新宿区

花澤 ちいこ

愚痴を聞くなんじやもんじやよ揺れ揺れて

大垣市

吉川 和子

たわひなき思い出ひとつクレマチス

養老郡養老町

佐藤 咲楽

地鎮祭のまさらかな木鋏風光る

三重県四日市市

後藤 允孝

雄鶏の蹴爪振りたて春の泥

静岡県藤枝市

山本 紫苑

真ん丸の顔に似合いの紙兜

三重県鈴鹿市

ドラム 缶王

快復の知らせ卯月の空眩し

大垣市

岡田 あや子

母吹いて子の顔にくるシャボン玉

大垣市

傍島 隆

選者吟

葉桜や笑顔を運ぶたらひ舟

武直

